葉片には疎にヤマカモジ様の長毛がある。小穂は 1-5 箇，カモジグサ様で，長芒を有する。合衆国東部にも若干もたらされて居る（写真）。

日本では始めての事であろうと思われるので和名を**セイヤウヤマカモジ**（新称）とし，報告する次第である。御鑑定と種々御教示下さつた小山鉄夫氏に厚く御礼申上度い。

附記：大村氏の採集された植物は，外国産の個体よりも全体に大形で，従つて小穂の数も多い。文献に依ると小穂は 1-3 箇程度が普通の様であるが，清水港のものは 5 箇に達する個体が往々ある。*Brachypodium* は最近細胞学的に甚だ興味ある禾本の属として，注目されて来て居る。大村氏によると個体数も相当豊富らしく，核型の検査材料が一つ採集し易くなつた事としても面白いと思う。Hitchcock 氏の Manual の新版（1951）に図が出て居る。（小山）

○オホバヤシャブシの新産地（森 邦彦）K. MORI: A new locality of *Alnus Sieboldiana* MATSUM.

日本海には対島暖流が北上してゐるので東北地方の様な北国まで主として海岸地方及び諸島嶼にではあるが暖帯植物の天然分布をみてゐるのである。その最たるものはタブノキやヤブツバキである。又山形県西田川郡温海町海岸には自然分布の北限となつているマルバシヤリンバイもある。此処にある温海嶽は海岸線より 3.5 km 位内陸に位してゐるがこの山麓南西面にはアカメガシハ，シラキ，エノキ，ヤブツバキ，キヅタ等の暖帯植物が自生しておる。然るに今回又新らたに温海神社の裏近くに数本のオホバヤシャブシの自生しているのを見出したので報告する次第である。本種は勿論山形県では新発見のものであり，私の調べた範囲内では青森，秋田，岩手，宮城の各県には産しないから天然分布の北限と言へよう。偶々村井三郎氏が来学され伺い知つた事であるが福島県には自生してゐる由であつた。

○ニッコウミヤマガマズミ（新称）など（桧山庫三）Kôzô HIYAMA: New form of Japanese *Viburnum*.

下野国日光(1952 年牧野晩成氏採集)にミヤマガマズミの葉の表裏一帯にまばらではあるが粗い感じのする長さ 0.5-1 mm ばかりの開出した宿存性の毛のあるものがあつて，葉柄にも亦同様な毛が見られる。これは，これまでに毛の有無とか性質によつて分けられていたミヤマガマズミの変品に較べると更に著しい存在で，その毛の大部分は単毛であつて，ミヤマガマズミやオオミヤマガマズミに見られるような長さ 1.5-3 mm もある長い伏した絹毛は葉脈にも葉柄にも見あたらず，またチヨウセンミヤマガマズミの毛とも違つたものである。まだ本品の花は見ていないが，葉だけでも十分すぐそれと判るはつきりとしたものであるから，これをニツコウミヤマガマズミ（*Viburnum Wrightii* Miq. f. *nikoense* Hiyama）と呼ぶことにしたい。本品はオオミヤマガマズミの例から